

2019

[共同研究]

東日本大震災被災地域における 生活文化研究の復興と 博物館型研究統合

川村清志 編

共同研究の概要と本特集について 川村清志

【論文】

博物館展示における震災資料展示の課題と可能性 山内宏泰

【論文】

大規模災害時における文化財レスキューの課題 日高真吾

【研究ノート】

災害後方支援としての展示の試み 前川さおり

【論文】

文化財レスキューネットワークと遠野 前川さおり

【研究ノート】

和船の復元と漁労の復興 川島秀一

【論文】

震災・原発被災と日常／
非日常の博物館活動 内山大介

【論文】

災害の記憶をめぐる実践と葛藤 兼城糸絵

【研究ノート】

震災後に県立博物館が目指したもの 佐藤憲幸

【論文】

年中行事の動態的把握のための基盤作成 川村清志・葉山 茂

【論文】

民俗学における日記研究の展開とその可能性 川村清志・小池淳一

【論文】

民俗文化資料のデジタルアーカイブ化の試み 川村清志

【論文】

石造遺物を用いた民俗文化の再構成の試み 川村清志・小池淳一・葉山 茂・萱岡雅光・山内宏泰

【論文】

盆棚と薬箱 小池淳一

【論文】

死体を展示するということ 山田康弘

【研究ノート】

気仙沼における東日本大震災犠牲者の葬送 山田慎也



国立歴史民俗博物館 研究報告

第214集
平成31年3月

Bulletin of
the National Museum
of Japanese History

Collaborative Research:
Restoring Folk Cultural Studies in Disaster Areas
of the Great East Japan Earthquake:
From the Perspective of Museum-based Research
Integration

Edited by KAWAMURA Kiyoshi

**国立歴史民俗博物館
研究報告
第214集**

【共同研究】
**東日本大震災被災地域における
生活文化研究の復興と
博物館型研究統合**

川村清志 編

国立歴史民俗博物館研究報告 第214集

[共同研究] 東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合

目次

共同研究の概要と本特集について——	川村清志	1
[論文]		
博物館展示における震災資料展示の課題と可能性—	山内宏泰	13
災害資料展示施設の普遍的ミッション構築 のための研究とその意義		
[論文]		
大規模災害時における文化財レスキューの課題—	日高真吾	47
東日本大震災における文化財レスキューの経験から		
[研究ノート]		
災害後方支援としての展示の試み——	前川さおり	63
[論文]		
文化財レスキューネットワークと遠野——	前川さおり	77
公務とボランティア, 被災と支援の挟間で		
[研究ノート]		
和船の復元と漁労の復興——	川島秀一	95
[論文]		
震災・原発被災と日常／非日常の博物館活動——	内山大介	103
福島県の被災文化財と「震災遺産」をめぐって		
[論文]		
災害の記憶をめぐる実践と葛藤——	兼城糸絵	131
東日本大震災の津波被災地における メモリアルイベントに注目して		
[研究ノート]		
震災後に県立博物館が目指したもの——	佐藤憲幸	149
博物館・地域・こども		
[論文]		
年中行事の動態的把握のための基盤作成——	川村清志・葉山 茂	161
複数資料の並列化と階層化に向けて		
[論文]		
民俗学における日記研究の展開とその可能性——	川村清志・小池淳一	195

【論文】			
民俗文化資料のデジタルアーカイブ化の試み——	川村清志	219
文化資源化と研究分野の更新に向けて			
【論文】			
石造遺物を用いた民俗文化の再構成の試み——	川村清志・小池淳一	245
宮城県気仙沼市鹿折地区を事例として	葉山 茂・萱岡雅光・山内宏泰		
【論文】			
盆棚と薬箱	小池淳一	269
救出した文化財から「歴史」を考える			
【論文】			
死体を展示するということ	山田康弘	285
縄文人骨の展示における諸問題を考える			
【研究ノート】			
気仙沼における東日本大震災犠牲者の葬送	山田慎也	303

Contents:

KAWAMURA Kiyoshi	— Collaborative Research Overview and the Features of this Collection	1
[Article]		
YAMAUCHI Hiroyasu	— Issues and Possibilities of Museum Exhibits of Earthquake Disaster Resources : Research to Build a Universal Mission for Disaster Resource Exhibit Facilities and its Significance	13
[Article]		
HIDAKA Shingo	— Issues with Cultural Asset Rescue in Large-Scale Disasters : From the Experience of Cultural Asset Rescue in the Great East Japan Earthquake Disaster	47
[Research Notes]		
MAEKAWA Saori	— A Trial Attempt at Disaster-Time Logistical Support in the Form of an Exhibition	63
[Article]		
MAEKAWA Saori	— Tono City and the Cultural Property Rescue Network : in the no Man's Land between Volunteer Work and Civil Service, and between being Affected by and Aiding in a Disaster	77
[Research Notes]		
KAWASHIMA Shuichi	— Restoration of a Japanese-Style Boat and the Revival of Fishing	95
[Article]		
UCHIYAMA Daisuke	— Museum Activities in Ordinary and Extraordinary Times Against Earthquake and Nuclear Disaster : A Focus on Fukushima Prefecture's Disaster-Affected Cultural Assets and the Disaster Heritage	103
[Article]		
KANESHIRO Itoe	— Disasters Memories in Practice and the Struggles Involved : a Focus on a Memorial Event at an Area Struck by Tsunami in the Great East Japan Earthquake Disaster	131
[Research Notes]		
SATOU Noriyuki	— The Prefectural Museum's Aim after the Earthquake Disaster : The Museum, the Region, and the Children	149

[Article]		
KAWAMURA Kiyoshi and HAYAMA Shigeru	———	
	Creating a Basis for a Dynamic Grasp of Annual Events : For Organizing Multiple Resources by Hierarchy and Concurrency	161
[Article]		
KAWAMURA Kiyoshi and KOIKE Jun'ichi	———	
	The Development of Diary Research in Folkloristics and Its Potential	195
[Article]		
KAWAMURA Kiyoshi	———	
	Attempts at Digitally Archiving Folk Culture Resources : To Make Use of Cultural Resources and Update the Field of Science	219
[Article]		
KAWAMURA Kiyoshi, KOIKE Jun'ichi, HAYAMA Shigeru, KAYAOKA Masamitsu and YAMAUCHI Hiroyasu	———	
	Reconstruction of Folk Cultural Studies Focused on Data- base of Monuments Made of Stone : A Case Study of Shishiori District in Kesen-numa City, Miyagi Prefecture	245
[Article]		
KOIKE Jun'ichi	———	
	An Obon Altar and a Medicine Chest : Considering “History” from Rescued Cultural Assets	269
[Article]		
YAMADA Yasuhiro	———	
	Exhibiting a Corpse : Considering the Various Issues of Exhibiting Jomon Human Bones	285
[Research Notes]		
YAMADA Shin'ya	———	
	Funerals of the Great East Japan Earthquake Disaster Victims in Kesen-numa City	303

『国立歴史民俗博物館研究報告』投稿要項

平成 29 年 3 月 27 日 研究推進センター会議決定

1 定義

- 1.1 『国立歴史民俗博物館研究報告』(以下「研究報告」という。)は、国立歴史民俗博物館(以下「本館」という。)の研究資源、機器等を利用した研究成果を掲載する本館における最も基本的な刊行物であり、歴史学、考古学、民俗学及びそれらの協業による広義の歴史学並びにそれらと関連する諸分野に関する「論文」、「研究ノート」、「資料紹介」、「調査研究活動報告」(以下「論文等」という。)を發表することにより、それらの学問の発展に寄与するものである。
- 1.2 通常号は、本館が定期的に刊行する研究成果の報告書であり、特集号は、本館共同研究等の成果報告書である。
- 1.3 掲載される論文等には、次の区分がある。
 - 一 論文：歴史学、考古学及び民俗学並びにそれらと関連する諸分野に関するオリジナルな研究の成果をまとめたもの、若しくはある分野に関する研究史や研究成果、現状、展望等を総覧し、総合的にまとめたもの
 - 二 研究ノート：研究の中間報告等大きな研究の一部をなすもの、若しくは予察、試論、着想等を提示するもの
 - 三 資料紹介：歴史・考古・民俗・博物館に関する資料の紹介や解題・翻刻を主としたもの
 - 四 調査研究活動報告：本館の事業や研究活動の内容について報告するもの、若しくは調査・研究の基礎情報を提示するもの
- 1.4 研究報告は、原則として本館のリポジトリに登録される。

2 資格

- 2.1 通常号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
 - 一 本館の教職員、客員教員、名誉教授
 - 二 本館運営会議委員
 - 三 本館の共同研究員等
 - 四 本館が受け入れた各種研究員、研究協力者(リサーチアシスタントを含む)
 - 五 本館特別共同利用研究員のうち受入期間中の研究成果の發表を希望する者で、指導教員が推薦した者
 - 六 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻の大学院生
 - 七 本館の館蔵資料を調査・研究し、その成果をまとめた者
 - 八 その他、研究報告編集委員会(以下「委員会」という。)が適当と認めた者
- 2.2 特集号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
 - 一 本館の共同研究員等
 - 二 その他、本館共同研究等の代表が必要と判断し、委員会が適当と認めた者

3 投稿

- 3.1 原稿は、区分を問わず未發表のものとする。また、二重投稿は認めない。
- 3.2 原稿の区分は、執筆者が明示する。なお、この区分の最終的な調整は委員会において行う。
- 3.3 原稿の使用言語は、原則として日本語とする。他の言語を用いる場合は、日本語の翻訳又は抄訳を付ける。
- 3.4 「論文」には、800 字以内の日本語要旨及び 400 語程度の英語要旨並びに 5 項目以内のキーワードを付ける。
- 3.5 原稿の分量は、区分を問わず刷り上がりが 40 頁(写真、図版、表及び論文要旨等を含む)以内を目安とする。なお、1 頁の文字数は 1,700 字を目安とする。
- 3.6 特集号の原稿の総分量は、原則として、刷り上がりが 500 頁(写真、図版、表及び論文要旨等を含む)以内に収めるものとする。
- 3.7 カラー図版は、原則として認めない。希望する場合は理由を提出し、委員会の許可を得る。
- 3.8 写真・図版・翻刻等の研究報告及び本館のリポジトリへの掲載に関する許諾は執筆者がとり、使用料も原則として執筆者が負担する。

3.9 その他、原稿の執筆・提出に関する詳細は別に定める。

4 受理・採録

- 4.1 原稿は、委員会で定めた査読者による査読を経て、委員会が審査の上、掲載の可否を決定する。
- 4.2 原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。返却を希望する写真、図版等のある場合には申し出ること。
- 4.3 掲載順序は、通常号においては「論文」、「研究ノート」、「資料紹介」、「調査研究活動報告」の順とし、同区分の場合は著者の五十音順とする。特集号においては本館共同研究等の代表が定める。

5 権利関係

- 5.1 研究報告の編集著作権は大学共同利用機関法人人間文化研究機構にあり、論文等の著作権は執筆者に属する。
- 5.2 本館は、本館のリポジトリに関して複製権と公衆送信権をもつ。但し、執筆者は公開に適さない部分の削除・非公開を表明できる。
- 5.3 執筆者の所属機関等のリポジトリでの公開は、研究報告の紙型を用いた場合は刊行から1年後以降、データのみの場合は初出を明記した上で奥付日以降に可能とする。なお、所属機関等のリポジトリに公開を希望する場合は、本館に連絡する。

6 その他

- 6.1 本館で作成する抜刷りは、100部までとする。
- 6.2 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
- 6.3 本要項の改訂に際しては、委員会が原案を作成し、研究推進センターが決定する。
- 6.4 提出先・連絡先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地
国立歴史民俗博物館研究協力課 研究報告担当（代表電話 043-486-0123）

附 則

『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（通常号）及び『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（特集号）は廃止する。

〔国立歴史民俗博物館研究報告編集委員会〕

館外委員 (五十音順)

伊藤紫織 尚美学園大学芸術情報学部
寺前直人 駒澤大学文学部
本郷恵子 東京大学史料編纂所
和田 健 千葉大学国際教養学部・大学院人文公共学府

館内委員

小池淳一 研究部民俗研究系 (編集委員長)
島津美子 研究部情報資料研究系
樋浦郷子 研究部
松木武彦 研究部考古研究系
関沢まゆみ 研究部民俗研究系 (研究推進センター長)

国立歴史民俗博物館研究報告 第214集

〔共同研究〕東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合

川村清志 編



平成31年(2019) 3月15日 第1版第1刷発行

(非売品)

発行所



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 ☎043-486-0123(代)

印刷・製本所



株式会社 弘文社

〒272-0033 千葉県市川市市川南2-7-2 ☎047-324-5977

〔装丁〕 中山銀士

Bulletin of the National Museum of Japanese History

**Collaborative Research :
Restoring Folk Cultural Studies in
Disaster Areas of the Great East Japan Earthquake :
From the Perspective of Museum-based Research Integration**
Edited by KAWAMURA Kiyoshi

Collaborative Research Overview and the Features of this Collection
KAWAMURA Kiyoshi

Article
Issues and Possibilities of Museum Exhibits of Earthquake Disaster Resources :
Research to Build a Universal Mission for Disaster Resource Exhibit Facilities and its Significance
YAMAUCHI Hiroyasu

Article
Issues with Cultural Asset Rescue in Large-Scale Disasters :
From the Experience of Cultural Asset Rescue in the Great East Japan Earthquake Disaster
HIDAKA Shingo

Research Notes
A Trial Attempt at Disaster-Time Logistical Support in the Form of an Exhibition
MAEKAWA Saori

Article
Tono City and the Cultural Property Rescue Network : in the no Man's Land between
Volunteer Work and Civil Service, and between being Affected by and Aiding in a Disaster
MAEKAWA Saori

Research Notes
Restoration of a Japanese-Style Boat and the Revival of Fishing
KAWASHIMA Shuichi

Article
Museum Activities in Ordinary and Extraordinary Times Against Earthquake and Nuclear Disaster :
A Focus on Fukushima Prefecture's Disaster-Affected Cultural Assets and the Disaster Heritage
UCHIYAMA Daisuke

Article
Disasters Memories in Practice and the Struggles Involved :
a Focus on a Memorial Event at an Area Struck by Tsunami in the Great East Japan Earthquake Disaster
KANESHIRO Itoe

Research Notes
The Prefectural Museum's Aim after the Earthquake Disaster : The Museum, the Region, and the Children
SATOU Noriyuki

Article
Creating a Basis for a Dynamic Grasp of Annual Events : For Organizing Multiple Resources by Hierarchy and Concurrency
KAWAMURA Kiyoshi and HAYAMA Shigeru

Article
The Development of Diary Research in Folkloristics and Its Potential
KAWAMURA Kiyoshi and KOIKE Jun'ichi

Article
Attempts at Digitally Archiving Folk Culture Resources :To Make Use of Cultural Resources and Update the Field of Science
KAWAMURA Kiyoshi

Article
Reconstruction of Folk Cultural Studies Focused on Data-base of Monuments Made of Stone :
A Case Study of Shishiori District in Kesen-numa City, Miyagi Prefecture
KAWAMURA Kiyoshi, KOIKE Jun'ichi, HAYAMA Shigeru, KAYAOKA Masamitsu and YAMAUCHI Hiroyasu

Article
An Obon Altar and a Medicine Chest : Considering "History" from Rescued Cultural Assets
KOIKE Jun'ichi

Article
Exhibiting a Corpse : Considering the Various Issues of Exhibiting Jomon Human Bones
YAMADA Yasuhiro

Research Notes
Funerals of the Great East Japan Earthquake Disaster Victims in Kesen-numa City
YAMADA Shin'ya

